

経営管理実施権配分計画

1 個別事項

整理番号	配C-2	経営管理実施権の設定を受ける者(丙)		(氏名又は名称)		(住所又は所在地)								
		経営管理実施権を設定する市町村(乙)		(名称)		(所在地)								
		釜石地方森林組合		代表理事組合長 植田 収		岩手県釜石市片岸町第1地割1番地1								
		釜石市長		野田 武則		岩手県釜石市只越町3丁目9番13号								
丙が経営管理実施権の設定を受ける森林(A)														
番号	所在	地番	林班	小班	地目	面積 ha	現況樹種	現況林齢	経営管理実施権の始期	経営管理実施権の存続期間(終期)(B)	経営管理実施権に基づいて行われる経営管理の内容(C)	木材の販売による収益から伐採等に要する経費を控除してなお利益がある場合において甲に支払われるべき金銭(D)の額の算定方法	乙に支払われるべき金銭がある場合における当該金銭(E)の額の算定方法	備考
1	釜石市栗林町	19-95	326	18-1	山林	9.13	スギ	61	2023.3.1	19年(2042.3.31)	別添1の①参照	別添2の①参照	—	集C-22
2				18-2	山林		スギ	60	2023.3.1	19年(2042.3.31)	別添1の①参照	別添2の①参照	—	集C-22
3				18-3	山林		アカマツ	60	2023.3.1	19年(2042.3.31)	別添1の②参照	別添2の①参照	—	集C-22
4	釜石市栗林町	19-101	326	22-2	山林	0.19	スギ	77	2023.3.1	19年(2042.3.31)	別添1の①参照	別添2の①参照	—	集C-25
5	釜石市栗林町	19-97	326	19-6	山林	3.25	スギ	60	2023.3.1	19年(2042.3.31)	別添1の①参照	別添2の①参照	—	集C-27
6				20-1	山林		アカマツ	60	2023.3.1	19年(2042.3.31)	別添1の②参照	別添2の①参照	—	集C-27
7				20-2	山林		スギ	60	2023.3.1	19年(2042.3.31)	別添1の①参照	別添2の①参照	—	集C-27
8	釜石市栗林町	19-93-2	326	17-2	山林	0.35	スギ	65	2023.3.1	19年(2042.3.31)	別添1の①参照	別添2の①参照	—	集C-29

丙が経営管理実施権の設定を受ける森林 (A)									Aの森林所有者 (甲)		丙が甲にDを支払うべき時期、相手方及び方法	丙が乙にEを支払うべき時期	備考
番号	所在	地番	林班	小班	地目	面積 ha	現況 樹種	現況 林齢	住所又は所在地	氏名又は名称			
1	釜石市栗林町	19-95	326	18-1	山林	9.13	スギ	61			別添3参照	—	集C-22
2				18-2	山林		スギ	60			別添3参照	—	集C-22
3				18-3	山林		アカマツ	60			別添3参照	—	集C-22
4	釜石市栗林町	19-101	326	22-2	山林	0.19	スギ	77			別添3参照	—	集C-25
5	釜石市栗林町	19-97	326	19-6	山林	3.25	スギ	60			別添3参照	—	集C-27
6				20-1	山林		アカマツ	60			別添3参照	—	集C-27
7				20-2	山林		スギ	60			別添3参照	—	集C-27
8	釜石市栗林町	19-93-2	326	17-2	山林	0.35	スギ	65			別添3参照	—	集C-29

この計画に同意する。

権利の設定を受ける者 (丙) 住所 (同上) 釜石地方森林組合 代表理事組合長 植田 収 印

権利の設定をする市町村 (乙) 住所 (同上) 釜石市長 野田 武則 印

- (記載注意)
- (1) この個別事項は、経営管理実施権の設定を受ける者が異なる場合には、別葉とすること。
 - (2) (B) 欄は、「〇年」又は「〇〇年〇〇月〇〇日まで」と記載すること。
 - (3) 備考欄には、経営管理権集積計画の整理番号を記載すること。
 - (4) 共有者不明森林又は所有者不明森林に係る特例により定められた経営管理権集積計画に基づく森林の場合は、特例手続により定めた旨が分かる書類を添付するとともに、備考欄に記載すること。また、森林所有者が変更となった場合は、新たな森林所有者と元の森林所有者の氏名、住所が記載された書類を添付すること。
 - (5) 当該経営管理実施権配分計画の内容に関して丙が乙に提出した企画提案書及び図面を添付すること。

2 共通事項

この経営管理実施権配分計画の定めるところにより設定される経営管理実施権及び経営管理受益権は、1の個別事項に定めるもののほか、次に定めるところによる。

(1) 経営管理実施権に基づいて行われる経営管理の内容

丙は、1の個別事項に記載された森林（以下「当該森林」という。）の経営管理のため、1の個別事項に定めるところにより立木の伐採及び木材の販売、造林並びに保育（以下「伐採等」という。）を実施し、木材の販売による収益（以下「販売収益」という。）を収受するとともに、販売収益から伐採等に要する経費を控除してなお利益がある場合にその一部を甲に支払う事業を実施すること。

(2) 善管注意義務

- ① 丙が経営管理実施権に基づき経営管理を行うに当たっては、善良なる管理者の注意を持って甲の利益に最も適合するように配慮しなければならない。
- ② 甲は、この経営管理実施権配分計画の定める事項について、丙に対して義務の履行を求めることができる。

(3) 監督義務

乙は、丙に対して当該森林の経営管理の状況等について報告を年1回徴収することで、当該森林において経営管理が行われるよう努めなければならない。

(4) 報告義務

丙は、乙に対して当該森林の経営管理の状況等について年1回報告しなければならない。

(5) 経営管理実施権の対象とする森林

当該森林にある立木は、甲に帰属する。

(6) 経営管理実施権及び経営管理受益権の設定

この経営管理実施権配分計画の公告により、丙に経営管理実施権が、甲及び乙に経営管理受益権（金銭の支払を受ける権利）が、それぞれ設定される。
丙に設定された経営管理実施権は、この公告の後において当該森林の森林所有者となった者（国その他の森林経営管理法施行規則に定められた者を除く。）に対しても、その効力があるものとする。

(7) 経営管理実施権の設定等の条件

- ① 乙は、当該森林に係る経営管理権集積計画を取り消す場合にはあらかじめ丙に通知するものとし、当該経営管理権集積計画を取り消した場合は、当該経営管理実施権配分計画を取り消すものとする。
- ② 乙は、丙が次のいずれかに該当する場合には、経営管理実施権配分計画のうち丙に係る部分を取り消すことができる。
 - ア 偽りその他不正な手段により乙に経営管理実施権配分計画を定めさせたことが判明した場合
 - イ 森林経営管理法第36条第2項各号に掲げる要件を欠くに至ったと認める場合
 - ウ 当該森林について経営管理を行っていないと認める場合
 - エ 経営管理実施権配分計画に基づき支払われるべき金銭の支払又はこれに代わる供託をしない場合
 - オ 正当な理由がなくて（4）の報告をしない場合
- ③ 乙は、災害その他の事由により当該森林において、丙が（1）に掲げる事項を実施することが著しく困難であると認めるときは、気象災等により被害が発生して(10)により復旧を行う場合を除き、この経営管理実施権配分計画のうち当該森林に係る部分を取り消すことができる。
- ④ 丙は、1の個別事項に定める経営管理実施権の存続期間の中途において解約しようとする場合は、甲及び乙の同意を得るものとする。
- ⑤ 乙及び丙は、この経営管理実施権配分計画に定めるところにより設定される経営管理実施権に関する事項は変更しないものとする。
- ⑥ 丙は、当該経営管理実施権の全部又は一部について、第三者に移転若しくは設定してはならない。
- ⑦ 丙の権利義務の全部を承継した者は、当該経営管理実施権についても承継するものとし、丙又は当該権利義務の全部を承継した者は、あらかじめ、その旨を甲及び乙に通知するものとする。

(8) 甲への通知

当該森林について販売収益が生じた場合、丙が甲に対して販売収益、伐採等に要した経費等に係る明細書を通知するものとする。

(9) 森林への立入り及び施設の利用等

- ① 丙は、(1)及び(10)に掲げる事項の実施のため必要があるときは、当該森林に随時立ち入り、若しくは丙以外の者を立ち入らせ、又は当該森林に設定された森林作業道その他の施設を使用し、若しくは丙以外の者に使用させることができる。
- ② 丙は、(1)及び(10)に掲げる事項の実施のため必要があるときは、当該森林内に路網その他の施設を設置し、又は丙以外の者に設置させることができる。この場合において、丙は、当該設置された施設の維持管理を行うものとする。
(1)及び(10)に掲げる事項の実施のため必要があるときは、当該森林内に路網その他の施設を設置し、又は丙以外の者に設置させることができる。
- ③ 丙は、当該森林の立木が第三者に対して損害を及ぼすおそれがあると認める場合であって、かつ第三者から当該立木について除去等を行いたい旨の申出がある場合には、第三者が当該立木について除去等を行うことを認めることができる。

(10) 森林保険

- ① 気象災等により当該森林について被害が発生した場合、丙が復旧を行うこととし、復旧内容は甲と丙の協議により定める。
- ② 丙は、丙の費用負担において甲を被保険者として当該森林に生育する樹木について森林保険を付保することとし、甲はこれを承諾する。なお、当該付保に関する諸手続は丙がこれを行うものとする。
- ③ 天災地変等の事由により保険事故が発生し、甲に支払われる保険金がある場合、丙は当該保険金の請求及び受領を甲から受任するものとし、丙が当該保険金を復旧の用に供するため、当該保険金全額は丙に帰属するものとする。

(11) 災害等による経営管理の不実施

次に掲げる場合において、(1)に掲げる事項を実施する予定の森林について(1)に掲げる事項を実施することが不可能又は不適當になったときは、丙は、当該事項の一部又は全部を実施しないことができる。

- ① 災害その他の原因により当該森林の全部又は一部が損壊したとき
- ② 路網の損壊等により当該森林への到達が困難となったとき
- ③ 当該森林の土地が公用、公共用又は公益事業の用に供されるとき

(12) 損害の賠償

- ① 丙は、丙の責めに帰すべき事由によって甲に不利益を生じさせたときには、その不利益に相当する額を支払うものとする。
- ② 丙の責めに帰すことのできない事由によって甲に不利益が生じたときは、丙は損害賠償責任を負わない。

(13) 経営管理実施権の存続期間の満了時及び消滅時における清算の方法

- ① 経営管理実施権の存続期間の満了した場合において、甲乙丙の間で金銭の支払(1の個別事項に定める丙から甲に支払われるべき金銭及び丙が1の個別事項に定める経営管理の内容の全部又は一部を実施していないことにより、丙が甲から預かった金銭のうち甲に返還すべき金銭除く。)は生じないとともに、立木の所有権は甲に帰属するものとする。
- ② 経営管理実施権の存続期間の途中において経営管理実施権が消滅した場合において、丙が1の個別事項に定める経営管理の内容の全部又は一部を実施していない場合は、丙は甲に対して、実施していない経営管理の経費に相当する額を支払うものとする。

(14) その他

この経営管理実施権配分計画に定めのない事項及びこの経営管理実施権配分計画に疑義が生じたときは、甲、乙、丙が協議して定める。

別添1 経営管理実施権に基づいて行われる経営管理の内容 (C)

対象森林					経営管理実施権に基づいて行われる経営管理の内容
所在	地番	林班	小班		
① 釜石市栗林町	19-95	326	18-1	<p>1 丙は、経営管理実施権の設定を受け、企画提案書に基づく施業等について適切に実施するものとする。</p> <p>2 主伐及び主伐により生じた木材の販売ならびに主伐後の植栽及び保育を実施するものとする。ただし、主伐に当たっては、主伐後に植栽した立木が成林するように、林齢が期間中に10年生以上となるようにするものとする。</p> <p>3 主伐後の植栽については、地拵え後、それぞれの林分に適した苗を2,000本/ha程度の密度で植え付けるとともに、鳥獣害防止施設の設置及び維持管理を実施するものとする。</p> <p>4 保育については、2～6年生時に下刈りを年1回、10年生時に除伐1回を実施するものとする。</p> <p>5 施業の実施に当たっては、溪畔林における不必要な伐採は控える等、生物多様性に配慮するものとする。</p> <p>6 火災、病虫害及び気象災害の予防のため、年1回の森林の巡視を行うものとし、当該巡視は林道からの目視によって判断できる限りで行う。</p>	
			18-2		
	19-101	326	22-2		
	19-97	326	19-6		
	19-93-2	326	20-2		
			17-2		
② 釜石市栗林町	19-95	326	18-3	<p>1 丙は、経営管理実施権の設定を受け、企画提案書に基づく施業等について適切に実施するものとする。</p> <p>2 林分の一部の主伐及びその主伐により生じた木材の販売ならびに主伐後の植栽及び保育を実施するものとする。ただし、主伐に当たっては、主伐後に植栽した立木が成林するように、林齢が期間中に10年生以上となるようにするものとする。</p> <p>3 主伐後の植栽については、地拵え後、それぞれの林分に適した苗を2,000本/ha程度の密度で植え付けるとともに、鳥獣害防止施設の設置及び維持管理を実施するものとする。</p> <p>4 保育については、2～6年生時に下刈りを年1回、10年生時に除伐1回を実施するものとする。</p> <p>5 施業の実施に当たっては、溪畔林における不必要な伐採は控える等、生物多様性に配慮するものとする。</p> <p>6 火災、病虫害及び気象災害の予防のため、年1回の森林の巡視を行うものとし、当該巡視は林道からの目視によって判断できる限りで行う。</p>	
			20-1		

別添2 木材の販売による収益から伐採等に要する経費を控除してなお利益がある場合において甲に支払われるべき金銭（D）の額の算定方法

対象森林					木材の販売による収益から伐採等に要する経費を控除してなお利益がある場合において甲に支払われるべき金銭（D）の額の算定方法
①	所在 釜石市栗林町	地番 19-95	林班 326	小班 18-1	<p>1 甲に支払われるべき金銭の額の算定方法</p> <p>(1) 主伐について甲に支払われるべき金銭の額は、木材の販売収入の額から、主伐に係る経費、木材の販売に係る経費、主伐後の植栽（鳥獣被害対策の設置・維持管理を含む。以下同じ。）及び保育に係る経費、その他経営管理に要する経費（森林保険の保険料等）として乙が算定した額を控除した額とする。</p> <p>(2) 主伐について乙が算定する利益は、丙が経営管理実施権の設定を受けるにあたって乙に提示し、経営管理実施権配分計画に添付された利益の見積額とする。</p> <p>2 伐採等に要する経費の算定方法</p> <p>(1) 乙が算定する主伐に係る経費及び木材の販売に係る経費は、丙が経営管理実施権の設定を受けるに当たって乙に提示し、経営管理実施権配分計画に添付された経費の見積額とする。</p> <p>(2) 乙が算定する主伐後の植栽、保育に係る経費は、施業の実施時点で有効な岩手県が定める森林整備事業における標準単価を基に丙が経営管理実施権の設定を受けるにあたって乙に提示し、経営管理実施権配分計画に添付された見積額とする。</p> <p>(3) 乙が算定する森林保険の保険料は、経営管理実施権の終期までの間に必要な保険料の合計として、丙が経営管理実施権の設定を受けるにあたって乙に提示し、経営管理実施権配分計画に添付された見積額とする。</p> <p>3 留意事項</p> <p>(1) 丙は、主伐後の植栽及び保育に係る経費、その他経営管理に要すると見込まれる経費を、甲からの預り金として適切に留保し、これらに要する経費に充てることとする。なお、丙が預かる期間は、預り金の残高がなくなるか、経営管理に係る支出の必要がなくなるまでとする。</p> <p>(2) 丙が主伐後の経営管理を行うために要した経費の実費が上記（2. 伐採等に要する経費の算定方法）により算定された経費の額を上回る場合は、その差額は丙が負担するものとする。</p>
				18-2	
				18-3	
		19-101	326	22-2	
		19-97	326	19-6	
				20-1	
				20-2	
		19-93-2	326	20-2	

別添3 丙が甲にDを支払うべき時期、相手方及び方法

1 時期

丙から甲に対するDの支払いについて、伐採後、木材の販売収入が確定後速やかに行うものとする。

2 相手方及び方法

丙は、甲の指定する口座に支払うものとする。